

令和6年度 いのちの授業 事例集（小学校）【生活】

掲載数

53

	地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1	川崎市	小1	生活	いきものとなかよし	移動動物園として、様々な動物を学校へ招き、小動物との触れ合いの場を設定した。餌を与えたり、実際に触れたりしながら、命の尊さを身近に感じることができている様子だった。	
2	川崎市	小1	生活	はなをさかせよう	児童は、幼稚園や保育所などで、身近な自然の中で楽しく遊んだり、自然と親しんだりする経験を積んでいる。自分で種を植え、水やりなどの世話を続ける中で、元気に育ってほしいという思いから、太陽の光によく当たるようにと、ひなたに鉢を移動させるなどの姿も見られた。あさがおの成長過程を観察記録しながら様々な変化に気が付き、一喜一憂しながら嬉しそうに成長を見守っている様子が見られた。種ができたときは、あさがおの命が繋がったことを実感できた。優しい気持ちで動植物に接することの良さを、自分事として考えられるようにした。	・観察カード ・GIGA端末 ・図鑑
3	川崎市	小1	生活	大切な命	・2年生からアサガオの育てた経験を聞き、種をもらいうける。 ・自分たちでアサガオを種から世話をし、来年度の1年生のために種をとって、保管する。 ・マリーゴールドの苗から育て、花が長く元気に咲くように世話をする。 ・チューリップを球根から育て、花が長く元気に咲くように世話をする。栽培を通して命のつながりについて考える。	2年生・道路公園センター
4	川崎市	小2	生活	大切な命	・読み聞かせ「しんぞうのおとをきいてごらん」 ・聴診器で自分や友達の心音を聴く。 ・お腹の中の赤ちゃんの模型を見る。 ・新生児人形を抱っこして、生まれたころの話を聞く。 ・生まれてから今の自分に成長するまで守られてきたこと。 ・質問	助産師さん6名
5	川崎市	小1	生活	「いのちについてかんがえる」	・自分や友達の心臓の音「いのちの音」を聞くことで、自分や周りのいのちを感じ、自分や周りの人のこころとからだを大切にする気持ちを育む。 ・動物の「いのちの音」を聞き、「どうぶつのきもち」を考えることで、動物のこころとからだを大切にする気持ちを育む。体全体であらわす動物の気持ちを感じ、動物も人も大切にしてほしいことを伝える。	川崎市多摩区役所地域みまもり支援センター衛生課

6	川崎市	小複合	生活	「ジャガイモを育てよう」	昨年度2月に畑に植えたジャガイモを育て、水やりや雑草抜きなどの世話をした。6月に収穫して、穫れたジャガイモを使ってじゃがバターやフライドポテトなど複数の調理をした。一生懸命世話をして育てることで、小さなジャガイモからたくさんのジャガイモを収穫することができ、さらに自分の好きな料理を作ることによって、作物を育てることに、より親しみを感じることができた。	実施学年 さくら分教室1年～6年
7	相模原市	小1	生活	生き物大すき	夏季休業に入る前、9月に行う生活科「生き物大すき」の単元計画に悩んでいた。教科書では、昆虫を扱うことが主とされているが、「果たして、昆虫を扱うことでいのちの大切さを学ぶことができるだろうか」という疑問が上がっていた。その折、学校運営協議会を通して、麻生大学さんと連携できないかと考え、マッチングすることができた。麻布大学さんとしても、学生さんを積極的に地域に派遣し、学びを得てほしいという思いがあった。そこから学生さんと1学年担任で、場所の設定、動物アレルギーの有無など、細かい打ち合わせを重ねていった。そして迎えた授業当日、子どもたちは動物のスケッチやふれあい交流を行った。その中でも、なかなか動物にさわれない子どもがいた。実際に間近でみるのが初めてだと語っていた。しかしながら、2時間ある授業の最後には、勇気を出してさわることができ、「しんぞうがどくどくになっていた。いのちがあることをしった。」と、いのちの尊さに触れることができた。子どもたちにとって、深い学びの機会となった。	・講師は、麻布大学の学生さん及び、協力していただいた飼い主さん。 ・犬、ねこ、文鳥に触れさせてもらったことで、いのちの尊さを感じることが出来た。
8	相模原市	小2	生活	ぐんぐんそだてわたしの野さい	植物を継続的に栽培する活動を通して、これまでの経験を基に、植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、植物が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物に親しみをもち、大切にしようとするようにした。自分だけの野菜だけでなく、友達の野菜をはじめいろいろな生き物の命について意識をし、行動するようになった。	講師などは呼ばず、教科書を使用し、授業を進めた。 (参考図書) 啓林館 「いきいきせいかつ」下
9	相模原市	小1	生活	生きもの大すき	子どもたちが生き物と触れ合ったり、自らの手で継続的に生き物を飼ったり、生き物を大切にすることができるようになることや成長していることに気づけるように学習を行い、生き物を大切にすることができるように学習する。これまでに生き物と触れ合った経験が少ない子どももいることが考えられるため、学校で昆虫を捕虫し、お世話の仕方調べて、継続飼育を行ったり、移動動物園を学校に招待したりして、小さな命があること、柔らかさ、あたたかさを実際に感じられるように指導した。	(参考資料) 生活科 啓林館「わくわくせいかつ」上P52～64
10	相模原市	小2	生活	生命尊重	生活科の授業でグループごとに昆虫を飼育した。責任をもって育てられるようにあらかじめ「命を育てていく」ことだと児童に伝えた。児童が飼育方法を調べ飼育したことで、命を大切にする生命尊重の心が養われた。	
11	相模原市	小2	生活	「いのちのはなし」(独自)	助産師の講話を聞き、命が生まれることは奇跡であり、自分自身もその尊い命の一人であることを感じ、自他を大切にすることを学んだ。3学期には、現在までの自分の「成長」について調べ、まとめる予定。	講師：助産師

12	相模原市	小 1	生活	昆虫を育てよう	生活科で昆虫を育てる学習を行った。昆虫のすみかを知り、昆虫によって心地よい場所に違いがあることに気づいた。また、毎日の飼育を通して、「今は、ねむいのかな。」「今日は元気だね。」と小さな命に心を寄せることができた。	
13	相模原市	小複合	生活	いきものとなかよし	身近な生き物を探したり飼ったりする活動を行った。この活動を通して、それらの育つ場所や、変化の様子に関心をもって働きかけ、それらは生命をもっていることに気づくとともに、生き物への親しみがもてるようにした。適切な世話をして、大切にしようとする気持ちが見られた。	支援級 1・2・3・4年生
14	相模原市	小 2	生活	「みんな大きくなったね」	・胎児の生活 ・自分が生まれてきたときの様子 ・自分を大切にしていこう(自己肯定感) という内容を助産師さんにお話していただく。	子育てサポートハウス marimo助産院助産師 ※視聴覚室で児童と 対面で行う予定だが、状況しだいでは、教室とオンラインでつないで、お話いただく。
15	相模原市	小複合	生活	生命の尊重	「マリーゴールドの栽培を通して」 5月に自分たちで種まきから育てたマリーゴールド。たくさん咲いた花を目で楽しんだり、花を活用した草木染めを体験したりして、愛着をもつことにつながった。 11月頃、葉が枯れて細くて茶色くなっていく姿と元気だった頃を比べることで、「年をとったから」「種をつけることができたから」と生命について考えた。また、枯れると株が抜けやすくなり、根を張る力もなくなってくることを体感することができた。種まきから最後までを自分たちの手に関わることで、体験し、考え、気付くなかで生命の尊さを学ぶことができた。	1・2年
16	相模原市	小複合	生活	「もっとなかよし町たんけん」 生き物と搾乳体験をしよう(食育)	①子牛の心音を聞く ②牛乳ができるまでの過程のパネル展示、説明 ③搾乳の仕方、搾乳機の使い方(児童の指を使って実演) ④子牛を触る ⑤搾乳体験 生き物とのふれ合いを通して、生き物にも命があることを知る。普段、飲んでいる牛乳ができるまでの過程を知り食べ物を大事にすることや命をいただいていることを考えるきっかけとする。	1・2年生児童 JAかながわつくい・酪農協議会
17	相模原市	小 2	生活	命の大切さを知る	子どもの成長を動画で確認し、どのように子どもが成長していくのかについて知ることができた。実際の重さを体感し、命の尊さについて学習を進めた。	

18	横須賀市	小 2	生活	いきものとなかよし	学校でつかまえたカマキリを飼うことになった。子どもたちはカマキリに名前をつけ、どのようにしたら飼うことができるのかを図鑑等を使って調べた。虫かご内の環境整備、えさの確保など、積極的に活動した。特に子どもたちが一番感動していたのは、カマキリの食事だった。バッタを食べる様子、トンボを食べる様子、それらを見るたびに「おー」と歓声が上がった。そうしているうちにカマキリも徐々に寿命が近づいてきた。弱々しくなっていくカマキリを最期まで見届けろべきか、外に逃がしてあげるべきか、子どもたちは本気で話し合った。命をつなぐために他の命をいただくこと、そして、自分たちが飼い始めた“命”に対してどのように責任をとるべきなのかということ。それらを体験的に学ぶことができた。	
19	横須賀市	小 1	生活	いきものとなかよし	校内や地域でみられる虫を観察し、教室で一定期間飼育することを通して、かけがえのない『いのち』を大切にしようとする心を育むことをねらいとした。どのような体のつくりで、どのような環境が飼育に適しているのかを話し合いながら丁寧に育て、大事にしようとする姿が見られた。	生活 「いきものとなかよし」
20	横須賀市	小 2	生活	生きものなかつし大作せん	これまでの経験を想起しながら、身近な動物を見つけ、動物の育つ場所の特徴に気がつくことができた。また、見つけた動物を適切な方法で、動物の世話をすることで、動物には、生命があることや成長していることに気づくことができた。世話をしてきたことで、動物に親しみをもち、これからも生き物を大切にしようとする思いが芽生えた。	
21	横須賀市	小 2	生活	一まいのしゃしんあしたへジャンプ	『生きる力とは何か』を冒頭で問い、導入で子どもたちで考え、話し合うところからスタートした。自分や家族が病気やけがになってしまった時のことを思い出し、お話を読むことで、人間の生命力、元気に生きようとする力をもっていることへ感動をしていた。また、自分の生活体験から、自分は家族はもちろん、周りの人たちに支えられて生きていることに気付き、命を大切にしようとする気持ちを高めていた。また、生活科『明日へジャンプ』と関連付け、自分自身の成長に改めて目を向けるきっかけ作りとした。	
22	湘南三浦	小 1	生活	あさがおをそだてよう やさいをそだてよう	生き物は助け合って生きていることを、様々な生き物同士の間わりから考えるとともに、考えたことをワークシートに書き出した。自分で育てたあさがおが花を咲かせたときの喜びや、野菜を実際に収穫し、食した時の感動を味わうことができた。自分以外の植物や生き物の命について考えることができた。	たのしいせいかつ 大日本図書
23	湘南三浦	小 2	生活	植物に親しみ、大切に育てようとする	・「はつか大こんの種」を種から継続的に育て、観察を続けることで変化や成長に関心をもち、普段食べているものの成長を感じ、食べものの大切さにも気づくことができた。 ・季節の観察の学習では、植物の変化を一年間通して観察した。季節によって植物の芽が出てきたり、葉っぱが出てきたり、実がなったり、枯れたりするなどの植物の成長の様子を見て命について考える機会となった。	はつか大こんの種 観察カードに成長の過程を記録

24	湘南三浦	小複合	生活	防災教育 「地震に備えよう」	地震が起きたとき、どうすれば自分の身を守ることができるのかを学んだ。身を守るポーズをみんなで実際に取ってみた。最後に、3つのレスキューポイントを確認し、教室での「注意するもの」について皆で見つけた。	教材：NHK for School 「地震に備えよう！ストレッチマン レスキューあらわる」 (特別支援級1・3・4年での取り組み)
25	湘南三浦	小1	生活	あさがおを育てよう	子どもたち一人ひとりが自分のあさがおを育て、植物の命、一生について学習した。種まきから数ヶ月にも及ぶ栽培活動では、芽が出た、葉が出た、つぼみができた、花が咲いたなど、たくさんの喜びや感動を得られたようである。成長が芳しくないときには、頻繁に様子を見て、時にはあさがおに声をかけをしている姿も見られた。人が責任を持ってお世話をしないと順調に成長しないこと、植物の命をそれぞれが預かっているということを学んだ。また、実ができ、そこからまた種ができて、命が続いていることについても学習する機会となった。	
26	湘南三浦	小複合	生活	命の安全教育 「じぶんのからだをたいせつにしよう」	・自分の体には、自分だけの特別大事な部分（プライベートパーツ）があり、その理由や見られないようにするための方法などを学んだ。 ・水着で隠れるところと口が基本的なプライベートパーツであるが、人によって他にも見られたくない部分がある場合があるので注意が必要である。 ・見せない、見ない、さわらないを原則とし、もし見られそうになった時は、はっきりと「やめて！」と伝えることが大切である。	講師：養護教諭 対象：小1、小2
27	湘南三浦	小1	生活	防災教育 「災害からいのちを守る」	1年生ということもあり、避難訓練時には避難の仕方や災害時の対応などについて、特に丁寧に説明をしてきた。さらに、校内研究の「防災研究部会」からの提案で、1年生全クラスで、「はなちゃんの はやあるき はやあるき」を読み聞かせた。この本は、避難訓練の大切さや日頃から逃げ切る体力をつけておくことの必要性を伝えており、児童は真剣なまなざしで聞いていた。また、避難時に逃げ切る体力をさらに養うために、体育の時間にウォーミングアップも兼ね、ランニングを取り入れるようにした。	「はなちゃんの はやあるき はやあるき」（岩崎書店）
28	湘南三浦	小1	生活	あさがおを育てる	花を咲かせたいという思いをもち、あさがおの種を植えた。土作りから、花のために、という思いをもって、観察やお世話に取り組むことができた。植物が一つの種からたくさんの種を増やし生命をつないでいることに気づくことができた。	あさがお栽培キット
29	湘南三浦	小1	生活	栽培	生活科の中でアサガオの栽培を行い、毎日水やりを行いながら自分の花を育てた。アサガオを育てる中で、声をかけながら育てると植物も喜ぶことをつたえ、植物への愛情や「大きくしたい」という意欲を高めるような指導を行った。	

30	湘南三浦	小複合	生活	小さな生き物との関わり方と生命の大切さについて	茅ヶ崎寒川獣医師会の中山先生にお越しいただき、お話を聞いた。当日は仲よし級（特別支援学級）４クラス全員が集まり、生き物との関わり方をクイズや具体例を交えてお話しいただき、子どもたちも興味深く聞くことができた。動物だけに限らず、他者に対して上手に関われないこともある児童にとっても、とても有意義な経験ができたと思う。	茅ヶ崎寒川獣医師会 中山動物病院 院長先生
31	湘南三浦	小２	生活	「やさいとなかよし」	・野菜を育てることを通して、いのちに愛着をもつ感受性が育った。 ・観察活動を通して、いつもは気づかないような野菜の色や形や変化に気づくようになった。 ・野菜を世話することを学校の学びとして位置づけることができた。	石坂園
32	湘南三浦	小２	生活	明日へジャンプ	大きくなったことを思い出し、自分の成長をふりかえる。	
33	湘南三浦	小２	生活	ぐんぐん育てわたしの野菜	夏野菜を育てて、観察をする。	
34	湘南三浦	小２	生活	いきもの なかよし だいさくせん	生活科の授業をきっかけにし、いきものを教室で飼育した。いきものを世話する体験を通し、命の大切さを学んだ。	
35	湘南三浦	小２	生活	生き物がもつ生命の尊重	虫や小動物など、身の回りにいる小さな生き物と触れ合い継続的に飼育する活動を通して、小さな生き物であっても自分と同じく生命をもつ存在であることに気が付く。また、生き物の生態について理解を深めたり、変化や成長の様子について考えたりすることで、生き物への親しみの気持ちや大切にしたいという意欲を養う。	光村図書 「小さな 友だち」
36	湘南三浦	小１	生活	防災教育	校庭に交差点をつくって歩行を学ぶことで、児童が交通事故の危険に気付き、安全な歩行、横断ができるようにした。 ぬいぐるみ劇による安全についての紹介や注意喚起で、児童が自転車の安全な乗り方について学習した。	講師 藤沢市防犯交通安全課
37	県央	小１	生活	きれいにさいてね わたしのはな	５月から種をまき、一人一鉢ずつ「あさがお」を育て、観察記録を残した。種からの発芽から採種までの過程や生き物を大切にすることを学んだ。また、枯れた後のツルでリース作りも行った。	

38	県央	小2	生活	めざせ やさいづくり名人	一人一鉢ずつ「ミニトマト」を育て、観察記録を残したり、調べ学習を行ったりした。ミニトマトのお世話や収穫して食べることを通して、植物を大切にすることを学んだ。また、2年生は1学期に食育の一環として、給食に出る地域で採れたとうもろこしの皮むきを行った。	
39	県央	小2	生活	農業体験	地域の方の畑をお借りして、ほうれん草の種まき・除草・収穫の体験をした。この体験を通して、農家の仕事に対する理解を深めるとともに、栽培することの大変さや喜びを体験することができた。	地域の農家
40	県央	小1	生活	なかよくなろう ね小さなともだち	プール清掃で捕獲したヤゴを各クラスで飼育した。多くの子どもたちはヤゴを見るのも初めてで、興味深々の様子だった。本やインターネットでヤゴの生態について調べたり、身体づくりについてよく観察したりと、意欲的に取り組むことができた。また、育てることの難しさや、命の尊さについて考えを膨らませる様子も見られた。	・絵本「こん虫をそだてよう・しらべようシリーズ」金の星社 ・絵本「コツがまるわかり！生き物の飼い方虫を飼おう！②」ポプラ社 など
41	県央	小1	生活	なかよくなろう ね小さなともだち	生き物に触れることは「生命」を感じる大切な機会である。モルモットふれあい体験に向け、生態等を本やインターネットで調べた。モルモットを全く知らない児童もあり、興味深々であった。また、モルモットに触れる際に大事なことを話し合ったり、抱き方を動画や本で調べたりした。「モルモットが気持ちよくなるように触りたい」「抱き方をきちんと覚えたい」等の思いをもち、当日を迎える。当日は係の人の話を真剣に聞き、丁寧にモルモットを扱う児童の様子が見られた。体験後、「モルモットによって性格が違う」「優しく触ると鳴いた」等、様々な気づきがあったようだった。	・絵本「コツがまるわかり！生き物の飼い方動物を飼おう！②」ポプラ社 など ・動画 NHK for school「おせわしてなかよくなりたい」 など
42	県央	小1	生活	なかよくなろう ね 小さなともだち	月曜日に近くの公園に虫を捕りに行き、一週間お世話をした（育てた）。なんとか死なせないようにすることを目標にし、自分たちで住处や餌を調べ、名前を付けて班ごとに飼育していった。週末の金曜日には、全部の虫が元気な状態でもとにいた公園に離すことができた。「小さなともだち」としてしなければならないことを調べ、その命について考えることができた。公園でお別れするときには、小さなともだちの命を守ることができ、みんな嬉しそうだった。	
43	県央	小2	生活	食べ物に「生命」を感じる	生活科の授業の中で、「野菜を育てる」という活動を行った。その中で、消費までを学習の一貫した流れを設定した。 本時では、改めて食べ物には生命があり、日々の生活を思い返して、どれだけ多くの「生命」をいただいていることを振り返った。児童の中には、その後の給食や家庭の食事の中で、食べ物の生命について話している児童もいて、本時の授業の成果を感じることができた。	観察カード

44	県央	小 1	生活	自分の命を守る	徒歩で初めて学校に通う 1 年生。通学路もあやふやの中、登校しているため、横断歩道を行き来してしまったり、道幅いっぱいに広がって歩いてしまったりすることがあった。登下校中に危険なことがあった時にどうするべきかを考える機会を設けるため、生活科の授業で事前学習をした上で、地域の公園まで出かけた。そこで、1 列に並んで歩くことや、「横断歩道は手を挙げて渡ること」等を実際に練習をした。また、授業で知った「子ども110番の家」を見つけると、「先生！ 4 こもあった！」と具体的にどこにあるのかを把握し、知っている知識から使える知識へととなり、自分事として考える姿も見られた。	
45	県央	小 2	生活	「おなかの赤ちゃん」	「おなかの中の赤ちゃんはどのように大きくなっていくのだろう」をめあてに、産休に入る前の担任から講話を聞いた。知っていることと知らないことを比べながら考える授業を行った。始めは目に見えないくらいのおうち（子宮）も一緒に大きくなっていくことを知らない児童が多かった。もともと大きな袋だと思っていたという意見も出てきた。目は見えていないが音は聞こえていることを知らなかったという児童は授業後にお腹に向かって声をかける様子が見られた。弟妹のいない児童はへその緒のことを知らない児童も多く、母体と栄養のやり取りをしていることを知らない児童もいた。	2 クラスで実施。実際のエコー写真も見せてもらい、お腹に赤ちゃんがいることをイメージすることができた。
46	中	小 2	生活	生きものなかよし大作せん	「わたし」のダンゴムシにするために、1人1つずつ飼育箱をもち、教室で飼い、週末には家に持ち帰り、いつでもふれあえるようにした。このようにして、子どもたちが自らの手で継続的に生き物を飼うことを通して、生き物を育てることに興味・関心をもち、それらが命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物を大切にする気持ちを育むことができた。	
47	中	小 2	生活	「あしたへジャンプ」	今日までの自分の成長について、思い出したり家族にインタビューをしたりして振り返った。誕生時（産まれた時の様子や名前の由来など）、1 歳頃、幼稚園・保育園の頃をインタビューしたことで、出産の大変さや愛情をもって大切に育てられたことを知ることができた。自分の成長を実感し、家族や今まで関わった人々に感謝して、これからの生活に自信と期待をもつ機会を設けることができた。	
48	中	小 1	生活	いきものとなかよし	学習園にいる生き物を探したり観察したりする活動を通して、生き物の育つ場所、動きや特徴、生命をもっていることに気付くという学習を行った。学習園にいたバッタやカナヘビなどを捕まえ、教室や家庭で飼って観察した。特に、生き物には命があることを全員で確認し、責任をもって飼い観察するよう指導した。児童も生き物を大切にしておかわいがろうという意欲をもって活動できた。	
49	県西	小 1	生活	いきものとなかよし	虫たちにとって過ごしやすい環境を調べたり、話し合ったりする活動を通して、生き物の命を大切にする気持ちを育んだ。	

50	県西	小2	生活	生きものと友だち	身近な生きものの飼育・観察を通して、生きものの不思議さや命の尊さ、生きものを慈しむ態度を育成する単元である。校庭に生息する生きものを探し、実際に捕まえて飼ってみた。今年度は、清掃前のプールに生息する水生生物も捕まえた。飼育する際には、生きものの気持ちを考えながら、食べ物や生活環境を工夫していた。生きものが好きな児童は、生きものへの関心をさらに高め、単元が終わった後もクワガタやオタマジャクシ、ザリガニなどを飼って、その成長過程を観察していた。中には、オタマジャクシが大きく育ったことや、ザリガニの赤ちゃんが生まれたことを喜んでいる児童もいた。生きものが苦手な児童も、ダンゴムシの生育に興味をもち、優しく世話をする様子が見られた。	
51	県西	小1	生活	わたしのあさがお	4月より、アサガオの栽培を行った。小さな種から芽が出て、蔓を伸ばしていく様を不思議に感じつつも愛着をもって世話をしていた。元気がないときにはどうしたらよいかという話し合いから、自分たちと同じように栄養や飲み物が必要だと気付いた。同じいのちを持っている存在として大切に育て、種ができた時には、新しい「いのちのもと」として喜びを感じるとともに、いのちは続いていくことに気付いた。	4月から10月まで継続した学習。
52	県西	小1	生活	わたしのあさがお	入学時に、2年生からアサガオの種をプレゼントされたことをきっかけとして学習がスタートした。種から芽が出て、成長していくことは知っているが、1年生の指先よりも小さな種が大きな変化をすることの不思議さを共有しながら、世話と観察を続けた。「芽が出たよ。」「先生、違う形の葉っぱが出たよ。」「小さな種からこんなにつるが伸びるなんてすごい。」と日々、驚きを感じていた。アサガオが生きて、成長していることを実感しながら「きれいな花を咲かせてね。」と声をかける様子が見られた。たくさんの花を咲かせたアサガオだったが、だんだんと葉や茎の勢いがなくなっていく様子を見ながら、「もっと水をあげなくちゃ。」と心配しながら毎日水をあげ続けた。花が咲かなくなったかわりに、種ができ始めたことで、「こんなに種が取れた。」と嬉しそうにする姿も見られた。1粒の種から、多くの種が取れることに驚きを感じながら、1年生なりに命がつながっていくことを感じる学習となった。	5月学習開始 10月学習終了
53	県西	小1	生活	わたしのあさがお	5月に種を植えてから、子どもたちは毎日水をあげながらアサガオ成長を楽しみに見守った。7月に入り、ツルが伸びてくると、ある児童のツルが他の児童の形と異なることに気が付いた。調べてみると、ツルの石化（帯化）と呼ばれる現象で、趣味の世界では「きしめん」などと呼び、愛好家もいると分かり、植物の不思議に触れることのできた貴重な体験となった。その後も、種をすべて収穫しようとして枯れたツルでリース作りをしたりとアサガオをとおして、植物の命を大切する心情を育むことができた。	学校図書 「みんなと学ぶ小学校生活上」